

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、標準偏差値50以上にする。

3. 指標にむけての取組

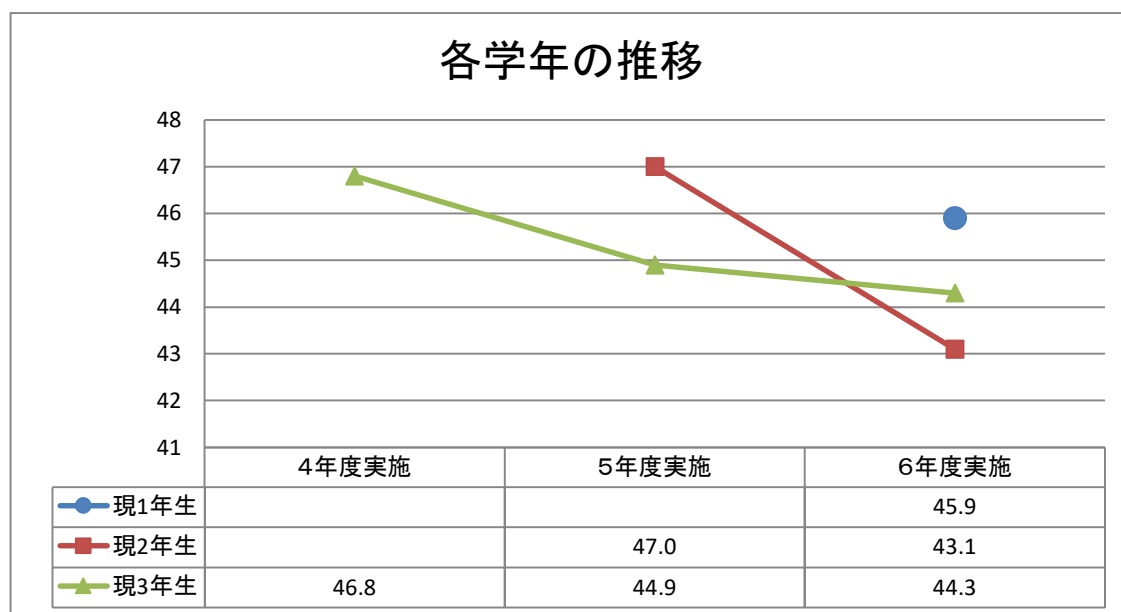
- 授業のグランドデザインや単元づくりをもとにした授業改善。
- 考査前後補充学習の実施。
- D層生徒の家庭学習支援のための教育相談、家庭学習内容・方法の支援。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
本校(A)	48.6	47.9	47.6	46.6	44.4
嘉麻市(B)	48.6	47.1	46.0	45.5	45.8
(A)－(B)	0.0	0.8	1.6	1.1	-1.4
標準偏差値との差 (A)－(50)	-1.4	-2.1	-2.4	-3.4	-5.6

各学年の推移



5. 各学校における分析

- 授業のグランドデザインの流れを全授業で実施することや、ICT機器を活用した思考活動場面の内容・活動方法の充実を図る研修や実践を行うことができた。
- 定期考査前後の補充学習の取組については、D層生徒の支援をより充実させるために、教科の厳選や日程の工夫が必要である。
- D層生徒の支援の充実を図るために、家庭学習の方法や内容の充実を各学年、各教科で工夫し、その評価・改善を充実させていく必要がある。

6. 各学校における今後の取組

- 授業での思考活動の充実と単元づくりの充実を図るための校内研修、授業研修の実施。
- ICT機器を活用した授業のグランドデザインを全授業で実施。
- 授業改善の日常化を図るための相互授業参観週間の設定。
- 朝学習と家庭学習連動させた学習習慣の確立。
- D層生徒の家庭学習支援のための教育相談の実施と家庭学習内容・方法の支援。
- 家庭学習とメディアの使用に関する内容の学級活動の実施と生徒・保護者への啓発。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、年3回(4回)実施する標準学力分析検査ごとに結果を分析し、学力向上の取組を改善していくことを通して、効果的な学力向上の取組を構築していくよう指導する。また、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆単元や学習のまとまりを単位とした短いスパンでの学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、それらをもとに取組の検証改善を図る校内学力検証委員会の充実について指導する。
 - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。
 - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。